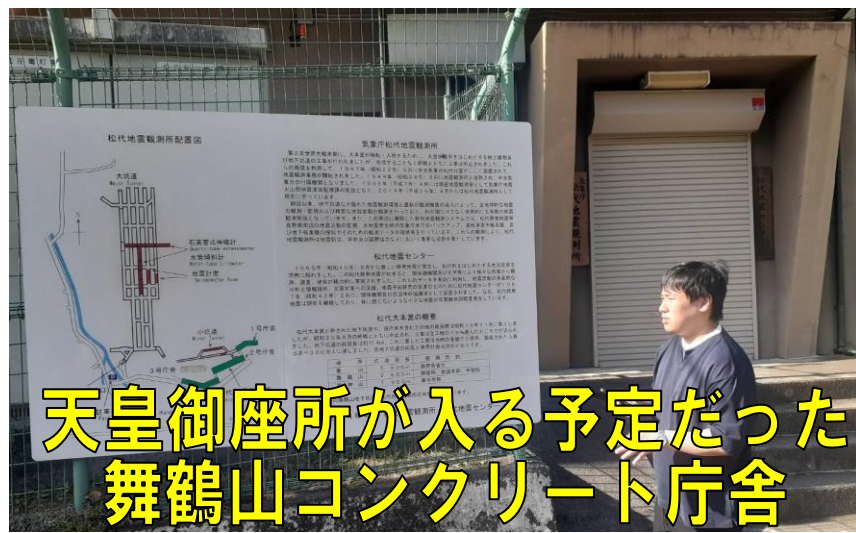




## 地本松代平和研修を行う！



政府や日本放送協会等が入る予定だった象山地下壕



天皇御座所が入る予定だった舞鶴山コンクリート庁舎

10月7日～8日、水戸地本は松代平和研修を開催しました。4月に「平和・人権・民主主義」を守る取り組みとして沖縄平和研修を行い、戦争の悲惨さや軍隊は市民を守らない現実を学びました。沖縄戦は松代大本営が出来るまでの時間稼ぎと言われており、政府や日本放送協会、天皇御座所等が設置される地下壕建設が行われました。今回、信越地本曲尾組織研修部長のガイドのもと、長野市松代地区にある象山地下壕や舞鶴山コンクリート庁舎の現地踏査を行いました。

太平洋戦争当時、戦局の悪化により本土決戦に向けた準備が進められました。本州において陸地の最も幅の広い箇所や交通の要所であること、10t爆弾にも耐えられる岩盤で縁起のいい「松」という字が入っている等の理由で松代に地下壕が建設されることになりました。建設を請け負ったのは西松組や鹿島組で当時2億円を投入し、延べ61万人が働いたと言われています。当時は二交代の12時間労働で朝鮮人7,000人、日本人3,000人が作業に従事しました。厳しい労働と粗食のため栄養失調で亡くなった人が多くいたと言われています。

参加者からは「沖縄平和研修で踏査した糸数アブチラガマと比べて歩きやすく、違和感を感じる」「天皇の権限が相当高いことを感じた」「松代大本営建設のために沖縄戦で亡くなった人、松代で働かされた労働者が亡くなったことに改めて戦争への怒りを感じる」等の感想が出されました。また、戦争によって企業が利益を得ていること、犠牲になるのは労働者であることを学びました。

現在、イスラエルのガザ侵攻やロシアとウクライナの戦争など世界各地で戦争が続いており、多くの市民や労働者の命が奪われています。先日自民党総裁選が行われ、高市新総裁が選ばれました。「憲法改正を成し遂げる」と宣言した通り、戦争への準備が進められようとしています。JR東労組水戸地本は、戦後80年を迎え、過去の歴史から学び、テロにも戦争にも反対し、命を大切にして安心して暮らせる社会の実現と憲法9条を守り広める運動を目指していきます！

## 戦争反対！憲法9条を守り広めよう！